

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1070400641
法人名	有限会社アイケアほしの
事業所名	グループホームまんさく
所在地 (電話番号)	群馬県伊勢崎市今泉街2丁目831-1番地 (電話) 0270-20-5355
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県 前橋市 大友町2-29-5
訪問調査日	平成21年3月20日

【情報提供票より】(20年 2月5 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
	常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算 6.5人

(2)建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1階建て	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 〇無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 〇無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(2月 5日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 88.6 歳	最低 82 歳	最高 105 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	伊勢崎佐波医師会病院、黒羽根内科医院、八斗島共栄歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関に入ると利用者の元気な声が迎えてくれる。理念の安心、安全がケアの基本となっていることが感じられる。このホームは共有空間と居室が離れているので毎日の移動がリハビリにつながっている。共有空間はリハビリやレクリエーションでにぎやかな場所ではあるが、静けさを好む人や一人で居たい場合は自室に戻れば静寂さがある。その時の気分により安心・安全な利用者の居場所が確保され支援されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム独自の理念=職員で新しく作り上げた。評価の意義と理解=職員が自己評価に参加し意義は理解されている。運営推進会議=参加した地域住民と利用者の関係性が出てきている。家族への報告=ホーム便りや面会時で報告をしている。運営に関する家族からの意見=何でも気が付いた事は話して下さいと声掛けしている。チームで作る介護計画=職員で話し合い計画を立てている。介護計画の見直し=3ヶ月毎の見直しとモニタリングが行われている。重度化に向けて=家族の意向と方向性を確認している。食事を楽しむ支援=利用者と一緒に食事をしている。災害対策=地域住民と訓練を行いホームへの協力を理解してもらっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で取り組み管理者が仕上げている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に一度定期的開催されている。利用者の家族も参加している。地域からは民生児童委員、区長、市職員が参加している。行事の報告、意見交換がされている。地域の人に参加する事で、ボランティアとしても施設に来てくれるようになり、利用者との関係が深まった。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの苦情や意見はあまり出てこない。苦情箱も設置してあるがあまり入らない。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域で行われている夏祭り、文化祭、敬老会などに参加している。また施設を開放して「詩吟の会」など発表の場所になっている。運営者は長くこの地に住んでいるので地域との関係は構築されている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)グループホームまんさく

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人としての尊厳を大切にして、家庭的で温かな生活を送れる・・・地域の人達にふれあい、生活の中で喜びや楽しみを感じるように支援・・・」と管理者・職員が共に考え作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の生活の中で職員は理念に立ち返りお互いに声を掛け合っている。人としての尊厳には特に気を配り、理念を共有し実践に向け取り組んでいる。		
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業主は地域の生活者なので、地域の人とはなじみの関係が出来ている。地域住民は普段から施設に立ち寄って利用者とも交流がある。また施設を開放して地域住民も参加したグループの発表会も行われている。施設の行事には地域の人が参加し、地域の催には利用者が参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価を職員会議の時に説明した。職員から意見を聞きとり管理者が作成した。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに行われている。ホームから利用者の現状報告が行われ、管理者、市職員、民生児童委員、家族代表、区長などが参加している。外食会、外出計画、避難訓練の行事報告がされている。	○	管理者は常に家族や参加者に対して意見を聞く努力を行ってはいるが、なかなか意見が出てこない。意見が出ない背景等に対しての工夫を凝らし、運営推進会議をサービスの向上に生かしてもらいたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業主は市の職員をしていたこともあり、連携は取れている。利用者の更新申請代理などでも役所に出向き情報交換を行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年に3～4回『まんさく便り』を家族に送っている。また面会時には利用者の状況報告をしている。面会の多い人には請求書を手渡している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関には意見箱が設置されている。意見等の窓口は管理者となっている。特に家族からの意見は出てこないが、会議や面会の時などには何でも話して下さいと管理者は声を掛けている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は無かった。管理者は異動や離職が利用者にとってダメージになるので最小限にしたいと思っている。職員の離職を防ぐために職員とのコミュニケーションを大切にして職員の気持ちを理解しようと努力している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は職員を研修に参加させている。研修参加者は会議などで報告をしている。AEDの講習は全員が参加している。その他、虐待防止、救急救命、開設者研修などに参加している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型連絡協議会に加入している。東毛地域の研修にも積極的に参加している。管理者は個人的にも他グループホームと連絡を取り情報を交換している。宿泊研修にも参加し管理者同士の交流を行っている。情報交換によりサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、本人との見学をお願いしている。利用者や職員とお茶を飲んだりして馴染んでもらい利用に結び付けている。体験利用もできる。施設から訪問をして関係を築くこともある。	
	13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はただ介護する者としてではなく、利用者から教えてもらう事が多くあり、共に支えあう関係を築いている。料理の下ごしらえ、洗濯物のたたみ方、山菜の調理方法などを教えてもらっている。また得意分野のある人からは一緒に教えてもらいながら関係を築いている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
	14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いは会話などを通して聞き取っている。また家族からも情報ももらっている。会議の時に職員の気付きを共有している。	
	15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族より意向の確認を行っている。計画作成者はカンファレンスの時に職員と検討を行っている。問題行動のある人には家族の協力なども計画に入れ作成している。施設のみだけでなく他の人の協力をお願いしながら計画を作成している。	
	16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度の見直しを行っている。また随時変更があった場合にはその都度の変更を行っている。モニタリングは月に一度行い見直しに結び付けている。	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援、美容院、お墓参り、買い物、外食、お花見、緑化フェア、孫の結婚式に参加など利用者の希望に添えるよう事業所の柔軟な支援をしている。		
、					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望するかかりつけ医となっている。協力病院からは往診してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制構築のための指針として施設の方針を定めている。家族の不安を少なくし重度になったとしても常に話し合いながら対応していきたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尿失禁の時などは速やかに対処し、感情を傷つけないようにしている。声掛けの時には言葉を選びプライバシーに気を配っている。書類は人目につかない場所に保管されている。報告はイニシャルで行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが一人ひとりのペースを大切にされた支援が行われている。眠れない人には職員と一緒に、お茶を飲み、話している。またテレビを見ている人には希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューには利用者の希望が取り入れられている。利用者は料理を手伝っている。夕食会などもありそれぞれ希望の食事が選択できる。職員は利用者と一緒に食事を取っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午前と午後好きなときに入浴できる体制が出来ている。毎日入浴している人が一人いる。入浴の出来ない場合は清拭で対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の下ごしらえ、清掃、洗濯物干し、洗濯物たたみ、配膳、下膳、などの役割がある。楽しみとしてはお花見、紙芝居、ビデオ鑑賞、カラオケ、体操がある。気晴らしとしては外食会、ドライブ、催物に参加などの支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所内だけで過ごす事の無いように、外に出る機会を多く設けている。天気の良い日は近所を散歩したり、駅伝の応援や、2ヶ月に一度のうどん、中華等の外食に出かけている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアを実践している。帰宅願望のある人には見守りをしている。職員2人で対応した時もある。管理者は鍵をかける弊害を理解している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回行っている。1回は消防署に依頼し通報訓練、避難訓練を行っている。地域の女性防火クラブの人の参加もある。地域の人にも参加してもらい訓練状況を見てもらっている。近所に災害時の協力依頼もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックがされている。また水分量のチェックもあり大まかな摂取目安が一日1200ccとなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にはテーブル、椅子、テレビ、観葉植物がある。食堂から続くデッキがあり花が飾られている。その外には四季の移ろいが感じられる樹木が植えられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、ベッド、整理箆笥、作品、お花など使い慣れた品物が持ち込まれ、また自分の作成した作品などでその人らしさの現れた居室となっている。		